

地域の中学校卒業、おめでとう、よく頑張ったね！

今朝、障害が重く医療的ケアを必要とするお子さんのお母さんから、我が子の中学卒業式（3／10）の様子が夕方のニュースの枠内で放映されると、わざわざ連絡をいただいていた。

（てっきりローカルニュースの枠内と思って見ていたら、全国ニュースの枠内だったのには(@_@))

この母子とは十数年前に知り合いお付き合いいただいているが、小学校入学に当たって、支援学校か地域の学校かの相談を受けたことがあった（HP「雑学 BN」の福祉・教育・医療関係（Ⅱ）、2003.03.17.「地域の小学校へ入学」の報」：参照）。

お母さんは我が子の障害が重いことから、当時、学校卒業後もおそらく自宅で過ごし地域で生活することが主になるだろうから、将来日常的に地域の方々（同窓生、等々）から声をかけてくれるように、同級生に知って貰うためにも地域の小学校に通わせたいと強く願っているようなので、その方向を励ました。

地域の小学校、中学校に通い、今日のニュースの中でも、卒業式では名前を呼ばれても返事出来ないお子さんに代わり同級生全員が「ハイ」と一緒に返事し、卒業証書を受け取るために同級生がお子さんの乗ってる車いすを壇上に上げることを、同級生がみんなで話し合い、決めていたとか。

何よりも同級生の声かけに応えるお子さんの笑顔が素敵だった。

ご家族は津波被害で避難所生活だったが、夜間の吸引器の音にも同室の誰もグチを云わず、地域のみなさんが避難所生活中も洗濯を始めあれこれと支援して下さったのも、日頃からお子さんのことを地域のみなさんが我が子を理解して下さっていたからでないかと、お母さんは語っていた。

ご家族は今は仮住居で過ごされているが、地域の学校に通ったからこそ、同級生を含め地域のみなさんが理解し支えて下さっている様子を今日のニュースで目にし、お母さんの十数年前の願いが見事に花咲いている様子に、お子さんの幼い頃も知るだけに胸にこみ上げてくるものがあった。

お子さんもよく頑張ったが、登下校の送迎や付き添い等にもよくお母さんも頑張ったし、それをご主人やお姉さん二人もよく支え頑張ったと思う。ただただ敬服あるのみ。

「障害児・者が地域で生きるとは、地域の社会資源を活用する生活だけでなく、地域の方々との顔繋ぎある生活！」ということを日々実践されきたご家族に、拍手！

阿部幸泰 （2012年3月12日 記）